



新婚世帯に家賃補助

少子対策の一環として

南あわじ市では、少子対策を市の重点施策の一つとして位置づけ、新年度から「少子対策課」を新設することとしました。



▲子どもを産み育てる支援（4か月児健康診査）

また、新婚世帯が民間賃貸住宅に入居する場合、家賃の一部を補助する「新婚世帯家賃補助制度」を設け、市内への定住を促進します。

市では、一月十五日に「少子対策推進本部（本部長・中田勝久市長）」を設置。二月一日の本部会議では、戦略的に施策を推進する少子対策課の新設と新婚世帯定住を図る同補助制度を決定しました。補助制度の対象は、婚姻届出日より一年以内の申請で、

南あわじ市の住民基本台帳に記載され、夫婦の合計年齢が八十歳未満の新婚世帯。平成十九年四月一日以降に月額家賃が五万円以上の市内民間賃貸住宅に入居し、年間総収入額六百万円以下の世帯などが条件。補助金は月額一万円が限度で、最長三年間。これらの少子対策は、三月の市議会定例会に提案され、審議されます。補助制度に関する問合せは、市長公室（☎43・5002）まで。

友好親善大使のコアラを視察

西オーストラリア州上院議長ら

兵庫県と国際姉妹提携を結ぶ西オーストラリア州の上院議長ら九人が二月七日、淡路ファームパークイングリランドの丘を訪問しました。ニック・グリフィス上院議長らは、同州が県へ友好親善大使として贈ったコアラの様子や園内の施設を見学しました。

コアラ館では、食事中的コアラの様子を視察。四頭のコアラの年齢が十歳と高齢となっていることから、中田勝久市長が「若いコアラを寄贈頂けたら」と依頼。グリフィス議長は、「手厚く飼育されていることがわかった。帰ったら議会に伝えたい」と答えられました。



▲コアラの飼育について話し合うグリフィス議長（右）と中田市長ら

いぶし瓦の魚礁を設置

二か所の海釣り公園



▲いぶし瓦の魚礁の設置（丸山海釣り公園）

南あわじ市の特産品のいぶし瓦を利用した魚礁を市内二か所の海釣り公園沖に設置しました。

地場産業である瓦の振興と豊かな漁場環境の整備を目的として、市が市内の魚礁メーカーに開発を依頼、約二百五十万円をかけた四基を製作・設置しました。

魚礁は、縦横約二尺、高さ一尺の鉄枠に約七百八十枚のいぶし瓦を並べています。重さは基礎を含め約五・六トン。瓦の湾曲を組み合わせた隙間が伊勢エビやアワビ、カサゴやソイなどのすみかとなり、大型魚を集めることが期待されています。魚礁メー

カーでは、いぶし瓦の小型魚礁を一年以上海底に沈め、素焼き瓦との違いを実験。素焼き瓦魚礁と同等以上の結果を確認しています。

三月九日には、魚礁を湊港から大型船に積み込み、二基を丸山海釣り公園（阿那賀）の海底に沈設。十日には二基を福良湾の浮体式多目的公園（メガフロート）沖の海底に沈めました。今後は定期的に、生物の付着調査を行い、効果が確認できれば増設していく予定です。

高速道路料金の低減を

淡路地区連合自治会から要望書

島内の三市の自治会でつくる淡路地区連合自治会の芝壽浩会長ら七人が一月十八日、淡路県民局と本州四国連絡高速道路株式会社を訪問し、神戸淡路鳴門自動車道の通行料金の低減を求める要望書を提出しました。

金で継続されているが、依然多大な割高感があり、島内の経済活動に影響を及ぼしている。「高速道路を利用せず、一般道路を走行する大型トラックの増加による騒音・振動・渋滞などが深刻化し、島民の生活が脅かされている」として、「島民の生活向上と、誰もが住みよい地域づくりのために通行料金の低減化」を

求めています。



▲上田茂県民局長（左）に要望書を提出する芝会長（中央）ら

グラフで見る統計「結婚について」



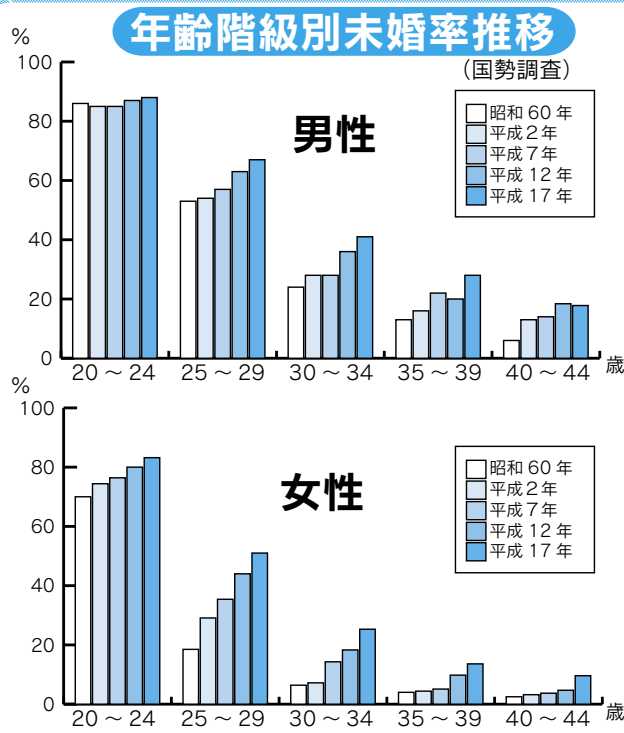
平成17年国勢調査 配偶関係から

男女別15歳以上人口

区分	男	女
総数※	21,403人	23,779人
未婚	5,326人	3,891人
有配偶	14,291人	14,264人
死別	1,047人	4,658人
離別	729人	954人

※配偶関係不詳を含む

未婚率は男女とも上昇傾向！



ふれあい市長室 子どもは大人を映し出す鏡

南あわじ市長 中田勝久

春弥生を迎え、新たな息吹が感じられる好季節となりました。いつの時代も社会に新しい風をもたらすのは若者であり、その若者が学業を終え社会に羽ばたくこの三月は、最も夢と希望に満ちあふれた月と言えましょう。

さて、青少年が関連する悲惨な事件が続発しており、私達大人の役割も問われています。以前から青少年は大人を映し出す鏡であると申しませす。大人が変われば、子どもも変わる、つまり青少年健全育成はすなわち大人の意識改革にかかっているといえます。私が今皆様の信頼を心の糧に、全身全霊を傾け推し進めております少子対策事業も、実は根幹では青少年健全育成（大人の意識改革）や男女共同参画推進と一体であると考えております。

子どもたちが健全に育つよう、家庭や社会、地域全体で見守り育てることで、子どもは大人に信頼感をもち、周囲に感謝の気持ちを感じるようになる。信頼されるような親、

近隣の人となる。言うことに従わせるのではなく、尊敬され従ってもらえる大人になることが一番大事なことだと思います。今の子ども達も成長し、やがて家庭を持ちます。男女がお互いを尊重しあい、子育てに夫婦が協力してともに取り組むことで、子どもを安心して生める家庭や社会づくりが構築されると思います。行政の協力、支援体制もその安心感づくりの一助であり、市が今打ち出している新婚世帯家賃補助などの経済支援もここに含まれます。いずれも、政治や行政のとりくみだけで実現できるものではありません。皆様お一人おひとりの自らの課題として行動していただき、地方自治体や、企業、民間団体などの相互に連携していくことが不可欠であります。少子対策が進んだ社会は、誰にとっても真に豊かな社会です。夢と希望のある街を目指し、取り組みでまいりますので、ご協力をお願いします。